

平成 23 年 3 月 14 日

DARAZ コミュニティ放送 第三回番組審議会議事録

株式会社DARAZ コミュニティ放送

1. 開催年月日 平成 23 年 3 月 14 日 (月) 16:30～

2. 場所 鳥取県米子市法勝寺町 70 番地
DARAZ CREATE BOX 2 階会議室

3. 出席状況 総委員数 10 名
出席委員数 6 名
欠席委員数 4 名
出席委員の氏名 本城祐子 委員長
永井伸和 委員
熊谷昌彦 委員
山本恭子 委員
早原彰子 委員
石賀治彦 委員

放送事業者側出席者名

代表取締役社長 富田寛
番組制作業務部長 永富久之
経営企画室長 遠藤彰

4. 議題

- 番組についての審議
- 番組審議会の運営

5. 審議の内容

- ① 番組についての主な意見
- 金曜ダラエティ ～金ダラ～ 金曜日 15:00～19:00
パーソナリティー すやまとしお、和田季子

<石賀委員>

- ◇ 2名のパーソナリティーについては、安心して聞ける
- ◇ 食べ物のコーナーが良くラジオを聴いていって見たこともある

<山本委員>

- ◇ 食べ物のコーナーは、いつも楽しく聞いている
- ◇ パーソナリティーが米子の方言でしゃべられるのが親近感を覚える

<本城委員>

- ◇ DARAZ FMの看板番組として定着している
- ◇ 競馬のコーナー、映画のコーナーなどそれぞれの分野のファンが付いている

<熊谷委員>

- ◇ 夕方の通勤時間帯に車で聞いている
- ◇ 軽快なしゃべりがドライブ中に心地よい感じがする

<永井委員>

- ◇ 経験のあるパーソナリティーが安心できる
- ◇ 後に継ぐ人をどう育てていくのかが課題である

<早原委員>

- ◇ ながら族で聞けるのがラジオの魅力である
- ◇ まだまだDARAZ FMが知られていない

○ 特別番組『災害時に果たすべきコミュニティFMの役割』

2月24日 木曜日 15:00～16:00

ゲスト 鳥取県西部総合事務所 林昭男所長

<永井委員>

- ◇ 災害時の報道のあり方を取った番組であり大きな意味があった
- ◇ コミュニティFMの重要性をあらためて感じた
- ◇ 東北関東大震災につながる一連の事象を通じてもう一度災害時の対応を検討していくことが必要である
- ◇ 鳥の目と虫の目が必要
- ◇ 情報の確かさを検証することも課題

<山本委員>

- ◇ 災害時には、何が起きているのか分からない
- ◇ 防災米子市も聞こえなかった

<本城委員>

- ◇ 行政機関がコミュニティFMの重要性を認識する機会となった
- ◇ いろいろの災害報道があったが、市民の立場に立った情報がない
- ◇ 市民が知りたかったのは家の前がいつ通れるようになるのか
- ◇ ラジオならではのリアルタイム情報を伝えることが出来る
- ◇ 放送局に関わる人をリポーターとして緊急時に情報収集できる体制を作る

<早原委員>

- ◇ モニター制度などを利用することも有効である
- ◇ 米子市に防災時の自治会の役割について提言している

<石賀委員>

- ◇ 正月の大雪の時、市内が大渋滞していたが情報が一切流れていなかった
- ◇ 情報さえあれば、渋滞の中にあえて入っていき、状況をさらに悪化させるようなことも無いはず

<熊谷委員>

- ◇ 東北の大学に連絡を取ってみるが、情報を入手できる手段は、ラジオだけになっている
- ◇ 報道を聞いてあらためて被害の大きさを知るような状況にある

② 番組審議会の運営

○ 番組審議委員増員の報告

- ◇ 3名増員
 - 米子高専名誉教授 大原啓道
 - 行政相談員 早原聡子
 - 株式会社法勝寺町 石賀治彦

○ 番組審議会規程

- ◇ 第4条 番組審議会の開催について
 - 変更前 原則として3ヶ月に1回開催する
 - 変更後 原則として2ヶ月に1回以上開催する

6. 審議機関の答申、または改善意見に対してとった措置

- ◆ 経験あるパーソナリティーのノウハウを引き継ぐために、春の番組改編にてDARAZ FMのアナウンサーを看板番組のアシスタントに起用した
- ◆ いつ起こるか分からない災害に備え、日頃から防災意識を高める取組を行う

7. 審議機関の答申、または意見の概要公表

事務所に備え置き 平成23年3月20日
ホームページに掲示 平成23年3月22日

8. その他の参考事項

特になし